帰天

シリーズ～続 福音の力～

2021/4/18

ルカ福音書24章36～53節

　こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」こう言って、イエスは手と足をお見せになった。彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

　イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

復活の体

- 目に見える姿である
  - 「亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」
  - 十字架の傷跡があったはず！
- 空間に支配されない
  - エマオにおられたはずなのにエルサレムの弟子たちのいた部屋に現れた
  - しかも「彼らの真ん中に」立たれた
  - 天に上ることさえ可能！

復活の体

- 会話することが可能である
  - しかも「彼らの心の目を開いて」語ることができる
  - 原文では「理解する心」（「心の目」は意訳）
- 触れることもできる
  - 「触ってよく見なさい」
- 食べることもできる
  - 「焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。」

聖書の重要性

- イエス様ご自身について聖書によって説明
  - 「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する」
    - ヘブライ語聖書の分け方＞旧約聖書全体という意味
- 旧約聖書に記されていること
  - 「メシアは苦しみを受け」
  - 「三日目に死者の中から復活する」
  - 「罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」＞世界宣教

弟子たちへの命令

- 証人となりなさい
  - 「エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。」
  - 「証人」の原語である“マルトゥース”は英語の“martyr（マーター／殉教）”のもとになった言葉
  - 「証人となる」ことは命がけの仕事になった
- 「約束されたもの」を待ちなさい
  - 「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエス様、天に帰られる

- 天に帰られるイエス様
  - ベタニア（エルサレムの隣町）近くに行き
  - 「手を上げて祝福された。」
  - 「祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。」
- 繰り返された「祝福」の意味
  - アブラハムに約束された「祝福」がイエス・キリストによって更新され、全人類に及ぼうとしている！
- エルサレムにとどまる弟子たち
  - 「絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた」

イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。

ルカ福音書24章50～51節